

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490300060		
法人名	株式会社リーフ		
事業所名	グループホーム 和田の杜		
所在地	大分県中津市大字是則1371番地3	ユニット名	東ユニット
自己評価作成日	平成24年11月20日	評価結果市町村受理日	平成25年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバンマトリックス 大分事業所
所在地	大分県中津市耶馬溪町大字大島2640
訪問調査日	平成24年12月3日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ぶどう園に囲まれ長閑な雰囲気を醸し出していて、施設敷地内に50平米ほどの芝生や畑がある。天気の良い日は気分転換の為、芝生に椅子を置き日光浴等楽しんでいる。また畑では、季節の野菜や花等を職員と利用者様と栽培させ育てた野菜を食したり、花はテーブルに飾ったりしている。施設内は1ユニットが50平米のフロアと広く、窮屈感がなく居室のほとんどがフロアに面している為、利用者様がテーブルに移動する際動線が短く直線なので転倒のリスクも少なく、職員も見守りが行える。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣接して果樹園が広がり、差し入れを頂いたり、葡萄狩りにも出かけている。敷地内の畑では野菜が育てられ、芝生に直接座ったり、そこに置かれたベンチで日光浴を行っている。また、天井の高い、ゆとりある室内空間にも様々な配慮が行われており、豊かな生活環境の中にある事業所である。今年度は、家族の協力も得ながら、生活歴やライフスタイル等の情報収集にも取り組み、馴染みの場所への訪問や、図書館の継続利用等、新たなアプローチにも取り組んでいる。日常の暮らしは、細やかな観察の中で、のびのびと過ごせるよう、管理者、職員が取り組んでいるとの印象を受け、自由な雰囲気が伝わる。支援の根拠となる情報収集や職員育成による、質の向上にも真摯に取り組む、医療との連携や看護職員の配置等、安心して暮らし続けることが出来るよう、体制の整備に取り組んでいる。今後は、現在育んでいる家族や地域との連携を、日々の暮らしや認知症ケアに活かしながら、地域拠点としての活動展開も大いに期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関の受付箇所と職員が毎日見る場所に掲示して、必ず見るように意識付けを行っている。毎週月曜日の朝礼時に、全員で理念を唱和している。	法人理念のもとに、地域密着型サービスとしての意義を踏まえた、独自の運営方針を掲げている。職員ロッカーへの掲示や毎週月曜日の申し送り時の唱和、研修で取り上げる等、浸透を図りながら、実践へと結び付けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(公民館祭り等)や校区内小学校行事への参加、施設行事には地域の方を招待し交流を図っている。	町内会に加入している。回覧板や運営推進会議を通じて、地域情報を収集し、行事や活動に参加している。隣接する果樹園より差し入れを頂いたり、葡萄狩りを楽しむ機会もある。ホームの夏祭り等の行事を、地域へ案内している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者とともに地域行事や活動に参加させて頂きながら、理解と協力の輪を広げつつある。また広報紙を伝じて情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民代表、区長、自治会長、家族代表、近隣小学校長、行政担当者の意見交換や施設の現状、事故報告(発生状況、対策)を隠さず報告し開かれた施設運営、サービスの質の向上に努めている。	複数の地域住民代表や近隣小学校校長等、地域からの参加が多く、家族や行政担当者とともに、情報共有や意見交換を行い、サービス向上に活かしている。ヒヤリハットや事故報告も含め、様々な状況について報告し、地域に開かれたサービスとして質の向上を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議でご意見や助言をいただくほか、適宜連絡を取り合い実情報告を行い相談や指導を頂く等の連携を図っている。	3ヶ月に1回、市内9ヶ所のグループホームが持ち回りで開催する連絡会が開催され、中津市担当者との意見交換や情報共有の機会となっている。また、困難事例等への対応や相談、報告を通じて、行政担当者との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の実情はない。但し施設の側に交通量の多い道路があり、時間によっては安全確保の為に、ユニット入口の施錠を行う事は家族の了承を得ている。また適宜屋外に出て畑や散歩を行い、外出の意向がある時は職員が付き添っている。	マニュアルの作成とともに、全体会議の中で勉強会を開催し、言葉や対応による抑制についても意識を高めている。また、家族とも共有認識を図りながら、環境整備の工夫や寄り添うケアを実践し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。基本的に、日中の施錠は行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理念への意識づけと施設内で虐待防止についての研修を行い、日々の仕事で気づくところがあれば職員間で注意しあえる環境づくりに努めている。		

大分県 グループホーム 和田の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政の専門相談員と連携を図り、必要に応じて対応できる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前相談や体験利用を行った上で運営規程、重要事項、契約書の内容について、十分に説明をしている。改定、解約に際しても同様に丁寧な説明と合意形成を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関受付に意見箱を設置している。また運営推進会議にご出席頂き、いただいたご意見、ご要望は議事録を通じて、すみやかに公表し早期改善に努めている。	2ヶ月に1回、「和田の杜だより」を発行し、日々の様子を伝えたり、運営推進会議の議事録を送付する等、家族との情報共有に努めている。今後も、家族との関わりを活かしたケアや運営に努めていく意向である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議、ユニット会議だけではなく職員交流を通じ、職員の意見や提案を聞く機会をつくるとともに言いやすい雰囲気づくりも行っている。また個別の相談にも随時対応している。	月1回、各ユニット、及び全体会議を開催し、意見交換や提案を検討し、実際に環境整備等の運営面への反映が行われている。また、事故対策、感染対策、レク企画、給食、物品の各委員会活動も含め、職員の主体的な関わりを重視している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各管理者が月々評価表を記載し、処遇改善加算等に賃金で反映させている、職員にも無理のない勤務、シフト作成と労働時間の厳守に努めている。毎月の評価と処遇改善加算の支給額に反映させており職員に説明し努力を求めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各ユニットに主任を配置、日々OJTを行うと同時に研修等の機会があれば参加している。最低月1度は、勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じ、同業者（施設）の研修に参加し、交流や勉強を行い質の向上に努めている。		

大分県 グループホーム 和田の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に本人の面談、施設見学、相談、体験利用等を行って頂き職員とコミュニケーションを図れるように努めている。また可能であればご家族と連携してサポートを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人とは別に、家族面談を行い本人、家族それぞれのニーズに対応した関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談・面談・情報提供等を基に適したサービスを見極め、必要に応じて他の施設サービス、医療機関との連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的介護ではなく、ご利用者様と共に家事やアクティビティ等を行うことにより、生活を共に支え合う関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細やかな情報の情報の伝達と共有を行い、意向や意見を反映して共に支え合える体制を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人から思いを引きだし、ご家族に相談して馴染みの方の面会や外出にご協力頂いている。また地域行事に参加する機会を利用し、馴染みの関係づくりに努めている。	家族とも協力しながら、昔の職場を訪ねることや高塚地蔵へのお参り、JRの利用等、馴染みの場所への外出支援が企画されている。図書館を利用を継続している方もおり、馴染みの関係性の継続に向けた積極的な支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の個性や人間関係を把握した上で、食卓やレク活動等、相性の合う方々との座席の配置を考慮している。職員が自然に間に入り、円滑な人間関係を構築できるように支援している。		

大分県 グループホーム 和田の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も本人の状態や家族の求めに応じて、出来る限り支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成時や日々の生活でご本人やご家族の希望や意向を確認してそれらの点が個別ケアとして生活・活動に生かされるよう支援している。	日々の記録は、発言や表情の変化を大切に捉え記録されており、職員間で共有している。また、生活歴や趣味、嗜好等の情報収集を重ね、本人の全体像の理解に努めている。カンファレンス等にて検討が行われ、毎月、個別の外出を企画する等、日々の暮らしに反映させるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、前施設の担当者からの情報に加え、日々の生活の中で本人の言動から一層の把握に務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から個々の心身の状態、他者との関係、好む事などを把握して職員間で共有し、その人らしく過ごせるよう支援に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向、要望を確認し職員間でケースカンファレンスを行い、現在の心身の状態にあった介護計画書を作成している	本人、家族の意向を踏まえ、必要な支援が丁寧に盛り込まれた介護計画が作成されている。個別記録は計画との連動を意識しており、毎日、実践状況を確認している。今後は、本人、家族の役割等を具体的に示していくことも検討してください。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録と業務日報の情報を毎日2回の申し送りや伝達し、情報の共有化とケアの連続性の確保に努めるとともに、柔軟な対応も可能にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のニーズに応える体制づくりをすすめている。その時々状況に応じ職員間で連携を図りながら支援を行っている。		

大分県 グループホーム 和田の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事(公民館祭り、清掃活動等)、校区内小学校行事(運動会など)の参加、リサイクル活動(リング、キャップ集め)、地域との交流(近隣農家も含め)が深められるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望される医療機関(かかりつけ医や必要により専門医)を利用できるように援助している。体調不良時や緊急の対応にも主治医との連携を図り、迅速な対応が出来るように努めている。	これまでのかかりつけ医の継続や、専門医の紹介も含め、複数の医療機関との連携を図り、適切な医療が受けられるよう支援している。看護職員3名が配置され、日常の健康管理はもとより、医師との情報共有や連携を図りながら、迅速な対応が行われている。受診結果記録により、家族との情報共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康状態(検温、血圧、酸素飽和濃度、顔色、気分不良、心身の状態など)の観察をはじめ、日常の関わりの中で小さな変化を見逃さず、いつでも看護師に相談できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関へ看護師から申し送りし看護、介護サマリーを情報提供している。入院中はこまめに面会に行き、情報収集や精神面のケアが行えるよう努め、入院先の医療機関と連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状は十分な取り組みは出来ていない。重度化や終末期の対応について、今後は前向きな検討を始めていきたい。	入居時に、重度化や終末期に向けた方針を説明している。状況の変化に伴い、その都度、話し合いを重ねながら、意向確認を行い、方針の共有を図っていく意向である。現在、看護職員も3名配置されており、家族や医療との連携や、職員の意識や理解を深めながら、体制を整えていく意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを設置している。また消防訓練実施に合わせ、救命救急講習などを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を計画し、ご利用者様と一緒に避難自主訓練を実施し、12月に消防隊と地域の消防団による火災、避難訓練を計画している。	年2回の防災訓練を計画し、夜間帯を想定した訓練や、地域消防団との連携も予定されている。非常持ち出し品が整備されている。被災時の避難先として、他法人の福祉施設との協力関係が築かれている。	

大分県 グループホーム 和田の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	現在まで歩んできた生活歴、人格を尊重した対応に努めている。また個人情報の保護の為個別記録は施錠保管している。	各居室には、トイレや洗面台が設置されており、プライバシーに配慮された造りとなっている。個別の生活歴やライフスタイル等についての情報収集に努め、その方らしさを理解し、尊重できるよう支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の声かけの中で本人の思いや希望を引き出せるよう心がけている。また自己決定(飲料、衣類、外出、手伝い等)に繋がるよう、後方援助に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の生活習慣や心身状態、その人のペースでゆったりと過ごして頂いている。また各自の選択で自室でゆっくりされたり、個人の趣味の時間を持てるように個別支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の趣味や志向、生活習慣などを大切に衣服や髪形、髪染めなどの自己決定など、自分らしく表現できるように努めている。また清潔面にも配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのその日の状態に応じて、出来る範囲で盛り付け、片付け等を手伝って頂いている。ご利用者自ら畑で収穫した季節野菜を使った単品料理を行っている。食事は利用者と職員と一緒に食べ、楽しい雰囲気づくりをしている。	炊飯はホームで行い、主菜や副菜については外部委託となっている。敷地内の畑で収穫を楽しみ、一品追加したり、調理の日を設け、おやつ作りを行っている。また、外食に出かける機会もあり、普段とは違う雰囲気を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量のチェック表を用いて、職員間で情報を共有している。一人ひとりの状態や好みに応じて粥食や副食形態の変更、ゼリーでの補水等の援助を行っている。また栄養士によるバランスの取れたメニューを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア(うがい、ブラッシング、義歯の水洗い)を行って頂いている。また一人ひとりの状態により援助時間や方法を工夫している。1回/年の歯科医による口腔検診を行なっている。		

大分県 グループホーム 和田の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	残存機能を活用し、なるべくトイレで排泄出来るように援助を行っている。一人ひとりに応じて排泄パターンの把握やそのサインを見逃さないように状態観察を行なっている。	個別の状況に応じて対応を協議している。環境整備の工夫や排泄用品の検討・選択、時間帯に応じた個別の対応等が行われている。表情や行動から、個別のサインを見逃さないようにし、排泄の自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から予防策として無理のない活動(散歩、体操など)を取り入れ、便秘時は補食(きな粉牛乳やヨーグルトなど)で自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は2日に1回のスケジュールを組んでいるがその時の体調や気分に合わせて、時間をずらしたり次の日に変更するなど、ご本人のペースに合わせて行っている。	一日おきの入浴スケジュールは設定しているが、毎日、入浴準備を行い、その日の意向や状況、体調等に応じて、柔軟な対応を行っている。夜間のシャワー浴や、入浴後のスキンケア等、細やかな配慮が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、ご本人のリズムに合わせた活動の援助をしている。また、その時の体調や気分に応じて適度な休息がとれ、夜間は安眠できるように援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は職員が常時情報共有できるように、個人ファイルで管理している。服薬変更時はNSからの説明と処方箋で確認し誤薬、誤配を防止するため三重チェックに努め、日々の状態変化を情報共有し看護師へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の盛り付け、おやつ作り、掃除などのお手伝いをして頂き、レクリエーション、散歩、菜園づくり、ゴミ拾いなど活動的な生活で張りや楽しみを持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	適度な気分転換を図れるように散歩や買い物等、外出の機会をなるべく設けられるように調整している。また、ご本人の希望に応じた外出プランを実施できるようにし、必要に応じてご家族や地域の協力を得ながら個別支援を行っている。	希望や季候に応じて、家族との連携も活かしながら、外出支援を行っている。馴染みの場所を訪ねたり、図書館の継続利用等、個別性ある支援も行われている。庭にはベンチも設けられ、敷地内の畑や隣接する果樹園の様子を眺めながら、気軽に日光浴を行うことが出来る。	



大分県 グループホーム 和田の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望でご家族の了解を頂いている方については、ご自身で所持している。またその他の方については施設で一定の金額をお預かりして、外出・買い物支援の際、必要時に使って頂けるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から手紙や電話の要望がある時は、都度対応できるようにしている。また 子機の使用や携帯を所持しているご利用者は居室で通話することができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	圧迫感のないように天井を高くし、自然光が入るように天窓を付けている。いつでも快適で心地よく過ごせるように3方向から送風を行い、温度の偏りが無いように工夫している。	天井の高い、ゆとりある広さの共用空間は、明るく、清潔感がある。ソファや畳スペース、また屋外のベンチや芝生等、臨機応変に場所作りを行いながら、寛ぎや楽しみの空間を作っている。温度・湿度管理や換気には留意し、快適さや感染予防への配慮を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには、テーブル、ソファ、畳、3か所の空間を分け、好きな時に好きな人と話やテレビ観賞が出来る工夫をしている。独りになりたいときは、一人掛けの椅子をテレビ前に置き、プライベートになれるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の思いを大切にしてお入居時に使い慣れた家具や寝具、趣味の物品等を持ち込んで頂いている。また居室内の装飾や衣類家具の配置等、ご本人の嗜好に合わせた居室に近付けるよう配慮している。	筆筒等、馴染みの品の持込みや、配置にも工夫があり、居心地良く、安心して過ごせるよう配慮が行われている。トイレや洗面台が設置され、必要に応じて、トイレへの移動が安全に行えるよう、特製の用具が設けられている等、自立支援への工夫も見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで手すりを設置しており、間取り家具の配置など本人の思いを大切に生活を送れるよう、安全かつ自由度の高い空間づくりを心がけている。		